

第2回委員会の意見概要と対応について

1. 第1回委員会の意見概要と計画の構成案について

- ・コロナ禍によりさらに緑の基本計画が大事になると感じている。ステイホーム、ソーシャルディスタンスの観点から、熊本市の魅力として緑の癒しの空間を謳っていただけらいいと思う。アフターコロナへの対応が必要になってくる。新しい生活様式にも対応していただけらいいと思う。(田中)



○熊本市において、緑の役割が大きくなっていくと考えており、緑の癒し空間の創出に向けて、現在ある地域の緑を守り、新たな緑を育み、活かすとともに、市民・事業者の皆様の参加による緑化を進めていきます。

2. 計画策定の趣旨、緑の役割について

- ・熊本のいいところは歴史や文化であると思う。歴史や文化はその都市にとっての個性であり、熊本は特に歴史も長いため、歴史文化の継承と緑地をどのように考えるのが重要である。(柳井) 昭和初期という早い時期の風致地区の指定が根幹にあったことを記載してほしい。そういった分析が社会性を持った計画をつくる。(蓑茂) 熊本らしさ、地震の経験を踏まえて、熊本市ならではの緑の基本計画を作る必要がある。(蓑茂)
- ・公園を増やすよりも、カウンターパート、官民連携を大切に、マネジメント、政策実現の手段を考えることが大切である。(蓑茂)
- ・観光賑わいやいきがい、コミュニティなどの言葉を使用することで、緑や自然に興味がある人だけでなく、より幅広い人が緑の基本計画に興味を持つようになるのではないかと。(柳井)
- ・緑の役割に都市の安全性への寄与に関する内容を加えてはどうか。都市の緑化なので、洪水調整、内水面も入れてはどうか。(伊東)
- ・温暖化や生物多様性に加えて、さらにSDGsの文言を入れることで統一感や方向性を打ち出せるのではないだろうか。(澤)



○歴史・文化の中で育まれてきた熊本らしさや経験を踏まえ、新しい緑のあり方や係わり方を検討します。

○緑を「守る」、「育む」の他に、「活かす」、「繋げる」を基本方針とし、官民の連携、観光の賑わいや地域コミュニティ活動、生きがいの場等を考慮します。

○緑がもたらす都市の安全性への寄与について、検討します。

○OSDGsを踏まえた計画とし、「基本理念」及び「基本方針」に反映しました。

3. 熊本市の緑の現状について

(現状の整理、評価について)

- 緑の現状に基づき、評価、課題の抽出を行い、計画、方針につなげていってはどうか。(柳井)
- 公園の整備、街路樹の管理費の現状を踏まえて、計画を策定することが必要である。公園に対する相対的な評価は下がっている。緑の基本計画のなかでストックマネジメントが導けるデータ整理が必要である。(菘茂)

(緑化について)

- 緑が少ない公園もある。桜の植樹等をして、緑の多い公園にしたい。(大川)
- 「森の都・熊本」を大切にするため、どの路線、どの地域に多く緑を入れたらいいかを考える必要があるのではないか。(大川)

(緑の効用や緑の質について)

- 今までは緑の量を問われていたが、これからは緑の質の評価が求められている。質の評価は難しく、人によって評価が異なるので、評価指標を改めてつくる必要がある。適切などころに適切に緑があることを市民と一緒に評価できる対話型の評価システムをこれから作る予定などはあるだろうか。(田中)
- 緑の多様性、効用については、市民として当たり前を感じているが、もっと強く訴えることが大切と思う。学校現場だけでなく、市民に浸透するしくみが大切である。(河上)
- 緑化コンクールの審査をするときに、これまでなかった壁面緑化の考え方も進んでいる。緑の評価については、屋上緑化、壁面緑化等の地域の特性も考慮できないか。街なかの緑化についても数値で示せると思う。(河上)
- 地下水、河川について多様な問題がでてきているが、市役所の課との連携がどうなるのか気になる。(岩佐)

(市民との協働について)

- コロナで緑が気になる人が増えている。熊本の都市緑化フェアとからめて進めてはどうだろうか。個人の庭の緑化コンテストがあると参加者が増えるのではないか。(福西)
- 地域の拠点となる学校の緑を守りとあるが、地震を経験したことから学校の考え方が変わってきた。「学校の緑を守る」という表現が気になる。守るという表現ではなく、人材育成などもっと積極的な姿勢を示して欲しい。(河上)

(政策評価について)

- 街路樹については市民とパートナーシップを結んで、一緒に評価をしていく緑のサポーターがあるように、政策評価にも参加のシステムを導入するのはどうだろうか。(田中)



(現状の整理、評価について)

- ・ 緑の現状、評価、課題を整理し、これを踏まえて計画を検討します。

(緑化について)

- ・ 公園、街路樹等について、緑を適切に管理していきます。

(緑の効用や緑の質について)

- ・ 緑の質について、市民と一緒に評価し、達成が実感できる目標を設定します。緑視率など立体的な緑化に対する指標を用います。
- ・ 緑に関する多様なニーズに対応して、市役所の各課が連携して、施策を進めます。

(市民との協働について)

- ・ 緑化コンテストの実施や、広報などを行い、市民や市民活動団体等による人材育成を含めた緑化推進を行います。

(政策評価について)

- ・ 政策実現手段として、行政だけでなく、民間によるP D C Aによる進行管理を行うこととし

4 上位・関連計画と施策の取り組み、及び施策の方向性について

- ・ 熊本市は政令市になった。施策を展開していく上で国の制度を十分に活用できているのか。熊本市は積極的に活用できていないのではないかと心配している。
- ・ 政令市としての独自の政策があるかが重要になると思うので、他都市の取り組みを踏まえて、いくつか先駆的事例を作してほしい。(蓑茂)
- ・ 地震に関連して、公園の防災教育への活用を加えることで、市民に響くのではないだろうか。(伊東)



○都市緑地法、都市公園法等の改正を踏まえ、国の施策を積極的に活用していきます。

○熊本らしさや他都市の事例を深掘りし、緑の質に重点をおいて、新しい施策、目標を検討いたします。

5 アンケート調査について

- SDGs、グリーンインフラなど、市民は言葉の意味がわからない人が多いと思う。一般の人にこういった用語がどの程度浸透しているのかをアンケートで聞くことで、計画の書きぶりの参考にすることができるのではないか。(福西)
- 歴史や自然との共生を考慮する方法をアンケートに組み込んではどうか。(福西)
- 公園の維持管理の質問のほかに、街路樹の維持管理についても聞いてはどうか。(内野)
- 市民意識調査で、郵送アンケートを行うが、その他の方法はないのだろうか。ネット社会なので、アンケートにプラスして別の手法も考えてはどうか。(蓑茂)
- 市民団体のアンケートについては、市民団体の活動内容、活動頻度、資金、物資調達の方法や、団体の自己評価、必要な支援等、活動の実態に関する質問に特化させることで、市民団体の活動の支援やパートナーシップを広げていくことに対して有用な成果が得るのではないか。(柳井)
- これから熊本市は、パートナーシップづくり、ファンづくりが必要となってくる。全てを行政がやる時代ではなくなっているので、アンケートだけでなく、インタビューやワークショップによる顔が見える関係づくりが大事になってくる。アンケート以外の方法でも合意形成をしてはどうだろうか。(田中)



- 市民アンケート調査の内容は、ご意見を参考に修正いたしました。
- 市民アンケートは、郵送アンケートに加えて、Web アンケートを行うこととし、熊本市HPのWeb アンケート頁から回答してもらいました。
- 市民団体のアンケートは、活動の実態に質問を特化させました。
- アンケート以外の合意形成については、今後の検討課題とします。